◉平成31年度施政方針

大きな飛躍のスタートライン

小沢昌記市長は31年第1回奥州市議会定例会で、本年度の市政運営の基本となる施政方針を述べました。その概要を紹介します。

問本庁政策企画課（☎34－2125）

平成31年度は私が市政の舵取りを担って、10年という節目の年を迎えます。これまでは、市町村合併時に抱えていた諸課題の解決に真摯に取り組んでまいりました。その結果、財政問題については一定の道筋を見いだすとともに、地区センターへの指定管理者制度の導入や地域会議の設置など、協働のまちづくりの土台が整い、私のまちづくりの目標である「奥州市はひとつ」に向かい、大きな飛躍のスタートラインに立つことができたものと考えています。

協働の力を確かなものに

私は激動する日本社会にあって、「協働」こそが本市の未来を切り開く原動力であると確信しており、この力をより確かなものにしていく必要があると考えます。

地域においては、各地区振興会などが中心となり、地域課題の解決に向けた取組みや特色ある地域づくり活動をこれまで以上に自発的・自立的に行っていただけるよう、各地区の自治力の向上を目指した財政支援の拡充を図ってまいります。

奥州アピールを確実なものに

新しい時代においては、市の魅力を広く市内外に広めていくことが重要であり、スポーツを通じた魅力発信を一層強化してまいります。

胆沢ダム直下に位置する「奥州いさわカヌー競技場」は、全国でも有数のカヌー競技場として、年々関係者からの評価も上がっています。本年もカヌージャパンカップを7月に開催するほか、引き続きオリンピック事前合宿候補地として誘致に努めてまいります。

本年で3回目となるいわて奥州きらめきマラソンについては、「自分史上最高のRun（ラン）市民史上最高のFun（ファン）」をキャッチフレーズに、まちの魅力を全国に発信する地域色豊かな大会を目指します。

直面する課題と取り組みの決意

一つ目は、本市の医療体制であり、その具体が医師確保と地域医療計画の策定、そして新市立病院建設協議の再開であります。特にも、小児科の医師確保と入院診療の再開については、喫緊の課題と捉えております。胆江医療圏において継続的に診療対応ができるよう、市立の枠にとらわれることなく、その体制整備に努めてまいります。

二つ目は、公共交通対策であります。31年度は、地域との協働の下、新たな交通体系の効果的な手法について検討を進めながら、本市の地域特性に合った第3次バス交通計画を策定し、持続可能な公共交通ネットワークの構築を目指してまいります。

三つ目は、観光施設などの活用についてであります。これら施設などの活用方針については、より最小の経費で最大の効果が図られる運営を目指すもので、最終的な目標に「民間移譲」を掲げ策定する所存でありますが、解決しなければならない課題も多くあるため、さまざまなご意見を頂戴しながら方針を決定し、目標に向けて取り組んでまいります。

四つ目は、岩手競馬の競走馬からの禁止薬物検出問題であります。競馬運営が地域経済に与える影響は非常に大きいことから、岩手競馬存続のため、関係者が一丸となり、原因の究明と再発防止対策を徹底し、魅力ある岩手競馬を安定的に運営できるよう努めてまいります。

来るべき新しい時代に、奥州市がさらに飛躍するためには、これまで述べた課題に対し、決して目を背けてはなりません。難しい課題ではありますが、その解決に確かな道筋をつけるべく、誠心誠意、力を尽くしていく覚悟であります。

施政方針・部門別の主な重点項目

人口プロジェクト
- ■まち・ひと・しごと創生総合戦略次期戦略の策定

ILCプロジェクト
- ■外国人研究者などの食や住に関する受け入れ態勢の整備に向けた取り組み

みんなで創る生きがいあふれるまちづくり
- ■協働の提案テーブルの活性化
- ■スポーツ選手の育成強化

未来を拓く人を育てる学びのまちづくり
- ■学習用タブレット型パソコンの導入
- ■胆沢城外郭南門地区の積極公開

健康で安心して暮らせるまちづくり
- ■医療費給付の対象を18歳まで拡大
- ■妊娠・出産・子育ての包括的支援

豊かさと魅力のあるまちづくり
- ■奥州市地産地消計画の策定
- ■訪日外国人観光客の誘客促進

環境にやさしい安全・安心なまちづくり
- ■空き家の適正管理や利活用の促進
- ■円滑な避難所運営ができる体制づくり

快適な暮らしを支えるまちづくり
- ■幹線道路や通学路の整備
- ■安全・安心な水の安定供給

◉平成31年度教育行政方針

一人ひとりが輝く教育の推進

田面木茂樹教育長は31年第1回奥州市議会定例会で、教育行政方針を述べました。その概要を紹介します。

問市教育委員会事務局教育総務課（江刺総合支所・☎34－1320）

「教育は社会形成の礎である」という認識のもと、総合教育会議の場などを通じて、市長と教育委員会との一層の連携を深めながら、市総合計画や教育振興基本計画などの諸計画に基づき、奥州の子どもたちに対する「一人ひとりが輝く」教育を推進するとともに、中長期的な展望も見据えた上で喫緊の課題に対応してまいります。

「生きる力」を育む学校教育環境の充実

学校教育は、各学校の学校経営によって支えられており、教育課程に基づき教職員が一丸となって組織的かつ計画的に、教育活動の充実を図っていく必要があります。そのために、教職員の健康・安全を守る職場環境づくりを進める学校教職員安全衛生委員会の取り組みを継続します。また、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保し、教育の質をより一層高めるため、中学校の部活動のあり方や、授業日数や日課表の見直しなどを含めた「教職員の働き方改革」を推進します。

31年度は「児童生徒の人間関係づくりと教職員の同僚性を大切にした教育」とともに、「共に学び、共に育つ教育」、さらには「家庭・地域との協働による学校経営の充実」と「復興教育の推進」を土台とし、「幼小連携の充実」、新学習指導要領の趣旨を踏まえた「確かな学力を保障する教育の充実」、不登校・いじめの防止のための「心の教育の充実」、「特別支援教育の推進」を重点に取り組みます。

次代をつむぐ歴史遺産の保存と活用

文化財は、先人の知恵を秘めた歴史遺産であり、地域社会の活性化や魅力ある郷土づくり、市民の学習活動における人づくりの資源でもあります。市民、特に未来を担う子どもたちが郷土を理解して誇りを持つことができるよう、歴史遺産の調査研究、適切な保存と活用を進めます。

これからの時代を生き抜く力を

地域、そして未来を担う子どもたちを健やかに育てることは、全ての人の願いであり、教育にはそれを実現する使命があります。

「学ぶことが奥州市の伝統であり未来である」とする教育行政の基本理念の下、奥州の子どもたちが、これからの時代をしっかり生き抜く力を身に付けていくことができるよう、教育の発展に向けて全力で取り組んでまいります。

✲全文は市ＨＰに掲載しています。

奥州市　施政方針　検索